



四街道市議会議員

栗原なおや

後援会報 2023年 新年号

Prefectural Government Dynamism

県政躍動

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan



あけましておめでとうございます



本年が皆様にとりまして良い年になりますようお願いしております
鈴木陽介市長とこれからの明るい四街道市について語り合いました

四街道らしさを大事にしながら 街の価値を高めたい

栗原 本日はお忙しいなか有り難うございます。市長に就任されてから1年ほど経過しましたが、今、市政運営を担われていてどのような感想をお持ちですか。

鈴木市長 まずはじめにいろいろな市民の生活に関われる、その中で毎日多くの決断をさせて頂く事で、いっそう市民の幸せを考えるようになりました。この決断の連続の中で、重責はありますがやりがいを感じています。



栗原 大変に思われるのは市長として全て一人で決断していかなければならない、決断の連続とその重さに向き合う毎日かと思いがいかですか。

鈴木市長 四街道をこうしていこうという方針を市長選のときにビジョンとして掲げました。それが少しずつ職員の意識に浸透し、若者や障がいのある方もまちづくりに参加することでダイバーシティにつながっています。しっかりと市民の幸せを追求して、日々四街道のことを考えて行動し決断していきます。

栗原 鈴木市長は県議会議員のときから健康をテーマにし、また常に子どもたちの為にとお考えでした。これからの市政の基本方針や中心として進めたい政策にはどのようなものがありますか。

鈴木市長 なかなかこれが一番と決めづらいのですが、健康、住みよさ、未来というこの3つの軸は絶対に大事にしたいと考えています。四街道らしさを大事にしながら街の価値を高めていく、市民生活の幸せにつなげていくという意味で四街道には欠かせないものだと思います。健康寿命をいかに延ばすか、どうやったら健康になれるのかを街づくりの中に落とし込みたいと思っています。また高齢者の方々にいつまでも元気で頂けるよう政策をフル動員していきたいです。子どもたちを真ん中に、困難な状況に置かれている子どもたちにもしっかりと光を当てながら子育てしやすい環境を作りたいと思います。

栗原 私も街づくりにおいては、子育て世代の方々をどう支援していくかが将来の四街道市にとって大変に重要だと考えています。

鈴木市長 おっしゃるとおりで、子育て世代の方々が四街道を選んでくれる事が、高齢者の支えてくれる人を増やしこの街の持続可能性につながると思います。

ごみ処理の課題や 都市計画道路について

栗原 市長になられて今、急いで取り組まなければいけない問題や重点的に取り組むべき課題についてはいかがお考えですか。

鈴木市長 やはりごみ処理の問題ですね。市民の皆様が本当に不安に思っただらっしゃると思いますので、早く方向性を付けたいと思っています。現在の予定地で建設するにしても広域にて行うにしても非常に複雑な問題ですので、もう一度丁寧に考えつつも、スピード感を持って進めたいと思います。

栗原 私もこの問題については議会質問の中で多くの時間を費やして取り組んできました。とりわけ土壌汚染問題については市を含めた利害関係者が多



く複雑な事からも、全容の解明にはまだ時間がかかると思われます。ただこれまでの汚染調査費用だけでも数億円もの税金が費やされ、さらに今後求められる除染費用も数十億円と見込まれることから、このような事態が2度と起こらないよう検証し、市として再発防止に努めて頂きたいと思えます。次にやはり議会で取り組んできた課題として都市計画道路の問題があります。これまでの議会質問では都市計画道路の整備率は50%程度でしかなく、全線の開通にはこれまでの整備実績からおおよそ230年、総事業も約370億円必要との答弁を頂いています。このように毎年3億円以上の事業費が都市計画道路の建設に費やされていますが、このままでいいのか、財政と調整しながら進めるべきではないかと思えますが、市長はいかがお考えでしょうか。

鈴木市長 今後、少子高齢化、大規模な災害への対応や次期ごみ処理施設の建設などにより財政上の負担が大きく出てきます。今後の都市計画道路のあり方については、市全体の財政を勘案しながら考えてまいります。

栗原 私も同感です。今後の少子高齢化により四街道市の人口も減っていく中で、数十億円もの予算が求められる都市計画道路が本当に必要なのかを考えるべきだと思います。

鈴木市長 中期的、長期的視点をしっかり持って各事業を進めていきたいと思えます。議会のご提言もしっかり受けながら街づくりをしていきたいと思えます。

新型コロナ感染症対策および 今後の商業振興について

栗原 つぎに市でも取り組まれている問題ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により飲食店などの市内零細事業者の多くが疲弊しており、自主廃業せざるを得なかった商店が何件も出ています。これまで四街道市では商業振興に対する支援の取り組みが弱く、その効果が今日の状況を迎えていると思えます。このまま放置すると四街道市でもシャッター街が生まれる可能性が高まりますが、今後の商業振興についてはいかがお考えですか。



鈴木市長 地域密着で賑わいを創って下さっている多くの商店の皆様が本当に苦境にある事は実感しております。そのため十分ではないかもしれませんがコロナ臨時対策の交付金などの支援をさせて頂きました。ただそれはあく



までも対処療法的な話であり、これからの商店や商店街の担い手である若い世代の育成など、人への投資を考えながら商業振興策を進めていきたいと考えています。

栗原 大変有り難いです。地域商店の頑張りが四街道市の発展につながっていくと考えています。

鈴木市長 栗原議員は商店会会長でもあるので、しっかり栗原議員とも話し合っていきたいと思っています。

栗原 これまで議会の中では商店街としての面的な整備を訴えてきました。しかしこれからは魅力ある個店をどのように創出していくか、各商店へのアドバイスや人材育成も重要と考えています。そのための支援や制度設計を是非お願いしたいと思っています。

鈴木市長 そのためにも商業振興に関わる皆様と、もっと顔の見える関係を築いていきたいと思っています。その意味で、商店街もそうですが多くの企業とのパートナーシップを築ける雰囲気づくりをしたいと考えています。企業誘致や公民連携の専門部署もゆくゆくは創っていききたいと思っています。

栗原 出来れば異業種交流を含めた新たな仕組みづくりを、商業だけではなく工業や地域、福祉団体などと一緒に地域を創っていただけるようなバックアップをお願いしたいですね。

鈴木市長 市がつなぎ役となって、みんなで街を創る体制を早く整えたいと思います。

栗原 また商業者ばかりか、コロナウイルスの蔓延により生活に困窮されている方々が更に厳しい状況に置かれています。ウクライナ問題や円安問題により諸物価が高騰していくなかで、困窮している方々をどのように見つけ出してサポートしていけるかが行政の一つの課題ではないかと思われそうですが、いかがお考えですか。

鈴木市長 明らかに経済的に困窮している方々が増えていると実感しています。政府もいろいろと交付金を自治体に配布していますが、困窮している方々に寄り添うにはまだまだ不十分だと思います。市としては、生活困窮者自立支援制度もありますので是非ご利用頂きたいと思っています。

栗原 四街道では「くらしサポートセンターみらい」ですね。

鈴木市長 いろんな支援をつないでいく機能をもっと強めなければと思います。保育園や幼稚園を全て回りましたが、お子さん達やお父さんお母さんにも影響が出ていると伺いました。そういう意味で全世帯が困っているの、全庁的に問題意識を持って困っている人に手を差し延べていきたいと思っています。

栗原 離職した方への支援として住居確保給付金であったり、最終的には

セーフティーネットとしての生活保護などを申請しやすくして頂きたく思います。生活保護の捕捉率は3割程度と言われており、本来、生活保護を受けなければならない方は受給している方の2倍いると考える必要があります。それだけ生活に困窮している方がいることを前提として、その方々に困ったら市に来て下さいと言うだけでなく、積極的に声がけしながらスピーディーに支援できる体制作りをお願いします。

鈴木市長 そうですね。やはり制度があっても知らない方が多く、市役所がもっとわかりやすく伝えて行くべきだと思います。制度を作って終わりではなく、困っている人に届けるまで意識して伝えていくよう職員に指示しています。

栗原 市に相談に来て下さる方は良いのですが、情報が届かなかった方は我慢してさらに追い込まれてしまう。そこまで市の手が届く仕組みをつくり、困っている人に積極的に周知してもらいたいと思います。

鈴木市長 その意味で街の魅力を伝えるのも、そのような制度を伝えるのも広報が大切だと考えています。市にも広報広聴を担う課がありますが、全職員が市の看板を背負って市の魅力や制度を伝えていくべきという意識づけをしています。

近年のヤード問題について

栗原 有り難うございます。話は変わりますが、近年の市の課題としてヤードの問題があります。鈴木市長も県議の頃にこの問題を積極的に取り上げて下さいましたが、県ではいわゆるヤード条例が制定されて、立ち入り検査が出来るようになりました。また昨年には千葉市で罰則の付いたスクラップヤードの規制条例が制定されました。この事から、隣の千葉市の規制が厳しくなった事でスクラップヤードが四街道市に多く作られてしまうのではとの不安がありますが、この規制への取り組みについてはいかがお考えですか。

鈴木市長 ちょっと分けて考えなければならないのですが、私が県議会議員の時の2015年に自動車ヤード適正化条例が出来ました。自動車のエンジンなどを取り扱うヤードについては警察官と県の環境生活部廃棄物指導課ヤード班と四街道市とが連携して無通告の立ち入り出来るようになりました。抑止につながったと思います。ヤードが可視化されてきた、どこにあって何をやっているのかよく分かるようになりました。ただ自動車ヤードについては進みましたが、今お話のスクラップヤードについては、あくまでも有価物を扱っている中で、廃掃法の適用が難しい面がありました。千葉市で罰則付の条例ができましたが、熊谷知事に四街道市の事情をお伝えし、県全体を対象としたスクラップヤード条例をつくるべきではないかをお願いしています。

栗原 県では既にその方向が決まっているのでしょうか。

鈴木市長 すでに県議会でも議論されていて、私たちも意見交換しています。また千葉市に規制条例ができて四街道市にスクラップヤードが増えたという事実は、警察とも確認していますが今のところありません。ただ今後の可能性としてはあるので、不法ヤードにつながらぬよう対策を講じます。



鈴木市長（当時県議）・大越議員と障害者就労支援事務所を視察

栗原 有り難うございます。隣の自治体に厳しい規制条例ができるスクラップヤードが四街道市に逃げてくるのではとの心配がありました。県がより厳しい条例を制定する方向に向かっていて市民の皆さんも安心して頂けると思います。

鈴木市長 四街道市の事情を知っている方が県議会でも指摘して、四街道市民の安心安全を守り抜く条例にしてもらいたいと思います。

栗原 今後も鈴木市政を支えながら四街道市のために議会活動を頑張りたいと思います。本日は有り難うございました。

四街道市議会議員 栗原なおや プロフィール

昭和31年11月30日生

現住所 四街道市四街道1丁目

四街道市大日緑ヶ丘生まれ

千葉大学教育学部附属小学校卒

千葉大学教育学部附属中学校卒

市川学園高等学校卒

中央大学法学部法律学科卒

四街道市審議会委員（経歴）

市民参加推進評価委員会 / 総合計画審議会

都市計画審議会 / 保険福祉審議会 / その他

現在 四街道市議会議員（2期目）

副議長

公式ホームページは
こちら



<後援会討議資料>

栗原なおや後援会事務所

〒284-0001 四街道市大日418-3

TEL:043-422-8528 / FAX:043-423-7729

URL <http://www.kuriharanaoya.com/>